

ご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債およびリート等の値動きのある証券を投資対象としているため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資にあたっては投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をよくご覧ください。

投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

■購入時（ファンドによっては換金時）に直接ご負担いただく費用

購入時（換金時）手数料…上限 3.24%（税込） ※一部のファンドについては、購入時（換金時）手数料額（上限 37,800円（税込））を定めているものがあります。

■購入時・換金時に直接ご負担いただく費用

信託財産留保額…ファンドにより変動するものがあるため、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を表示することができません。

■投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用（信託報酬）…上限 年率3.348%（税込） ※一部のファンドについては、運用実績に応じて成功報酬をご負担いただく場合があります。

その他の費用・手数料…上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等でご確認ください。

※その他の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

上記の費用（手数料等）については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計金額等を記載することはできません。

《ご注意》上記のリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三菱UFJ国際投信が運用するすべての公募投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。

当資料に関してご留意いただきたい事項

（当資料作成の三菱UFJ国際投信は投資信託の運用会社です。下記は、投資信託に関する留意事項が含まれます。）

■当資料は、株式投資による資産形成に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

■当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

三菱UFJ国際投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

株式投資に興味をもったら読む本



『お宅訪問記』

話題の投資家“桐谷 広人さん”に聞きに行く！

三菱UFJ国際投信の鈴木志紀が
優待生活でおなじみの桐谷広人さんに会った

「10年前の大失敗で学んだ
人生を楽しむための投資」



 MUFG 三菱UFJ国際投信

昭和、平成、そして・・・

失われた20年を抜けて

日経平均株価は約27年振りの水準へ

日経平均株価推移



出所: Bloombergデータを基に三菱UFJ国際投信作成
 期間: 1970年1月5日～2018年11月30日、日次
 日経平均株価に関する著作権、知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
 日本経済新聞社は本商品を保証するものではなく、本商品について一切の責任を負いません。
 ※上記は、過去の実績であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

資産運用を預金のみで実践し、お金を殖やすことの難しさは、誰もが実感されているはず。
 だからこそ、預金以外の選択肢として、
 株式投資を通じた資産運用を考えられている方は意外に多いようです。

日本の株式市場が、失われた20年を抜けた水準に達したことも、
 株式での資産運用への関心を高める要因にもなっているのでしょう。
 当社が実施したアンケートによると、これから投資をはじめたい方が多い55歳前後の方が
 退職後の資産運用で検討する金融商品では国内株式が1位という結果になりました。

でも、どうやって始めればよいのでしょうか？
 そんなギモンを一緒に解決していきましょう。

退職後の資産運用で検討する金融商品

※紙面の都合上、設問や選択肢を短く書き換える、
 あるいは全ての選択肢を表示していない場合があります。

1位	国内株式	59.3%
2位	定期預金	45.1%
3位	投資信託	39.3%
4位	個人向け国債や地方債	22.3%
5位	外貨預金	13.7%

出所: 当社実施アンケート
 ※2018年3月下旬に調査を実施。サンプル数は3,723人
 ※調査対象者は55歳以上の方で、定年退職者かつ金融資産1,000万円以上、
 もしくは現役層かつ見込み退職金を加味した金融資産1,000万円以上
 (金融資産は保険・不動産を除く)

関心を集める**株式**での資産運用
 でも、問題は**そのやり方**なんです。





\\ そうだ、あの人に聞いてみよう! \\ 10年前の大失敗で学んだ 人生を楽しむための投資桐谷広人さん

（きりたに・ひと） 広島県竹原市出身。株主優待と配当で暮らす投資家。元プロ棋士7段。1984年東京証券協和会将棋部の師範をしていたことをきっかけに株と出会う。独学で株を学び、現在は株主優待のある銘柄、高配当銘柄を中心に運用。テレビや雑誌、講演活動を中心に活躍。

将棋棋士で現在は“優待生活”でおなじみの投資家、桐谷広人さん。約35年もの投資歴を誇る桐谷さんが、紆余曲折を経てたどり着いた投資スタイル、それが株主優待と配当を重視する株式投資です。三菱UFJ国際投信の鈴木志紀が桐谷さんのお宅を訪問し、お話を聞きました。

桐谷さんのお宅へ訪問すると、最初に目に飛び込んできたのは株主優待品が詰まっているであろう段ボールの数々だった……。

大金持ちになれば
幸せになれるわけではない

鈴木 テレビでも拝見していましたが、こうして実際に見るとすごい段ボールの数ですね……。全部優待品ですか。

桐谷 優待品もありますが、引っ越してから梱包を解いていない荷物もありますね。この辺は、優待でもらった衣料品です。まあ、一生着ない服もありますね。

鈴木 （笑）本当に優待で生活されているんですね。

桐谷 もちろんです。株式投資で大損したらもちろん不幸ですが、大儲けして大金持ちになれば幸せかといえば、私は必ずしもそうではないと思うのです。将棋も同じで一方的に勝つことはありません。必ず一局のうちに良い局面と悪い局面がたびたび訪れます。形勢が良くなるとつい油断して苦しくなる。そうするとがんばって逆転する。それで優勢になるとまたちょっと油断したり……。その繰り返しで



株主優待や配当の魅力を語る桐谷さん。この日の服装も座っているキャンプチェアもすべて株主優待でもらったもの

す。株式投資も儲かると気が大きくなって散財したり、大雑把な投資をしたりして、結局やられるというパターンが多いものです。

プロ棋士の中にも株式投資をしている人が大勢いましてね、バブル期には数億円儲けた人もいましたよ。でもそんなに儲けちゃうと勤労意欲がなくなるのか、肝心の将棋の成績がパッとなくなる人もいました。宝くじを当てたけどその後、自己破産しちゃうとか、そういう話も聞きますよね。だから私は値上がり益を追求するのではなく、優待をいただいて、人生を楽しんだほうが良いと思っています。皆さんにお勧めしているのは100株ずつ株主優待をもらえる会社に分散投資することです。

過去の失敗を経て
優待と配当への愛着が増す

桐谷 2007年にプロ棋士を引退しましてね、57歳で3億円ぐらい金融資産がありました。これからは値上がり益を狙っていこうと思い、信用取引を始めました。でもその後のリーマン・ショックなどで3億円あった資産が5,000万円ぐらいまで減ってしまい本当に途方に迷いました。棋士は引退していたし、年金受給はまだだし、家賃も払わなければいけません。そんなときでも、保有していた株の優待品は届くんですよ。お米とか食料品とか。優待品に助けられてなんとか生き延びることができました。その経験からこれまで以上に株主優待への愛着が増しましたね。

長年の経験に裏付けられた投資哲学に魅了されながら話は進む。
桐谷さんが最終的にたどり着いたのは、優待を超えた投資法だった！

タヌキを追ったらヒグマに遭遇
投資は「狩り」ではなく「農業」

鈴木 桐谷さんというと優待のイメージが強いですが、配当にも着目されているんですよね？

桐谷 配当も大好きで高配当銘柄もたくさん持っていますよ。投資には2種類あると考えています。まず、値上がり益を狙う投資は「狩り」です。うまく仕留められればいいですが、弾が外れれば襲われて死にそうになるわけです。一方で優待や配当に目をつける投資はいわば「農業」です。狩りは危ないし、技術が必要です。誰でもできるものではありません。しかし農業はやり方さえ覚えれば、収穫できるモノもあります。

もともと私は優待や配当という果実を収穫する農業型の投資をやっていたのですが、信用取引を始めた際、タヌキ汁でも作ろうと思って棍棒を持って狩りに出てしまったんです。そこで草むらに入ったら、出てきたのはタヌキではなく、サブプライム問題やリーマン・ショックというヒグマだったわけです。

鈴木 そういう怖い目に遭って、いまはまた「農業」に戻ったわけですね(笑)。

桐谷 大儲けできるわけではないかもしれませんが、着実に資産をふやすのであれば農業型の投資のほうがいいです。企業の側からしても株主優待は非常にいい制度だと思います。以前、大手企業が不祥事を起こしたにもかかわらず、それほど株価が下がらなかったことがありました。その理由のひとつは、



起床後は優待で手に入れたコーヒーを一杯。その後、証券会社のホームページにアクセスし、割安で利回りの高い銘柄をチェックするのが桐谷さんのルーティン

桐谷スタイルの投資法

「優待＋配当＝4%以上の銘柄に分散投資」が誕生！



桐谷さんといえば自転車。テレビ番組で全速力で走る姿が話題となり、人気に火がついた。もちろんこの自転車も優待で手に入れたもの

優待目当てで株式を保有している人が売却しなかったからだと思います。スーパーで買い物をする際、株主優待を実施している企業の商品が棚に並んでいるとします。一方は、自分が保有している企業の商品で他方は保有していない企業の商品だとすると、約9割りの人が、自分が保有している企業の商品を購入する、という調査結果があるそうです。だから、株主優待や配当というのは、投資家と企業がお互いに良好な関係でいられる制度ですし、さらに日本経済にも貢献できる非常にいい仕組みだと思います。

株主優待と配当を合わせて4%以上の銘柄を厳選

桐谷 いま私が意識しているのは、株主優待と配当を合わせて利回りが4%以上の銘柄に投資することです。本当は配当だけで4%以上あればいいと思います、証券会社のホームページで4%以上の高配当銘柄をスクリーニングしていますが、配当だけで4%以上の企業は数が限られます。だから私は株主優待と配当を合わせて4%以上がいいと考えます。

高配当銘柄に集中投資することはデメリットもあ

ります。企業業績が悪くなったり、配当を出さなくなったりして、株価が下がる企業があるからです。その一方で、いまよりも配当をふやすことで株価が上昇する企業もありますから、高配当銘柄に分散投資しておいたら、うまく利益が得られると私は思っています。

900銘柄に分散する「ひとり投資信託」状態

鈴木 銘柄選択の際にはどのような情報をチェックしますか。

桐谷 私は会社四季報から何かを読み解くってできないんですよ。営業キャッシュフローとか……。だから証券会社のホームページのさまざまな機能、例えば理論株価と比較して株価水準が割安だと判断できるものを探します、その上で配当利回りやその会社の優待内容、財務状況をチェックして投資するかどうか決めます。

100株で優待がもらえるなら100株で十分。それ以上持っても送られてくる優待品は同じですから、100株ずつの分散投資が一番いいと思います。投資をするうえで大切なのは分散することです。いま、私は約900銘柄に分散投資しています。ひとりで投資信託を運用しているようなものです。

ただ銘柄をこれだけ持っていると、ひとりでは株主優待を消化しきれなくて……。部屋も散らかりますし、もう大変です。高配当の銘柄ばかりを厳選して投資してくれ、なおかつ信託報酬が低いような、そんな投資信託ができればいいですね。

インタビューを終えて

インタビューを始めた瞬間から桐谷さんの世界に引き込まれました。株主優待だけではなく、配当に着目する投資法に私も魅了されます。

「優待を使うことに迫られて、現金を使う余裕なんてありません！」と優待券でパンパンに膨れ上がった専用の財布を持ちながら桐谷さんはおっしゃっていました。きっと今日もどこかで、優待券を消化するために自転車を走らせていていると思います。（三菱UFJ国際投信 鈴木志紀）



\\ 教えて桐谷さん! //

暮らし&優待品

Q すべて株主優待だけで生活するって、本当に可能なんですか？

できますね。実際、いま着ている服も座っている椅子もすべて優待でいただきました。お米も届きますし、自転車も手に入れました。スポーツクラブも優待で行っています。

優待で一番のお気に入りには、映画観賞券ですね。先日一日で3本観に行きました。まあ、3本とも途中で

寝ちゃったんですけど(笑)

自転車であちこち走り回って優待を使う生活が面白がられて、メディアに取り上げられるようになりました。以前は「『優待で生活なんてできるわけない』なんていわれることもありましたが、最近では優待で生活し

ている人が私以外にも大勢います。

優待や配当に着目する投資方法に切り替えてからは、大儲けはできませんが着実に資産をふやしていると思います。家賃や水道光熱費などは、配当金で支払っていますし、何も不自由していません。

\\ 教えて桐谷さん! //

値下がりすると怖くない？

Q 持っている株が値下がりしたり、含み損を抱えたりするのは怖くないですか？

値下がりしても優待や配当をもらっているのに気にしません。そういう精神的な安定を得られるのも優待と配当を重視する投資のいいところですね。毎日株価をチェックして、割安で利回りのいい銘柄を買う。ただそれだけです。

「落ちてくるナイフはつかむな」という投資の格言がありますが、私は落ちてくるナイフもつかみます。それでいつも手が血だらけになるんですが(笑)。でも床についてからじゃ、遅いんです。

とくに年初来安値をつけた銘柄

を買うのはうれしいなと思っています。年初来の安値で買えれば、少なくともその時点では自分より高い値段でその株を買っている人が大勢いるのだからいいんじゃないの、という気持ちで投資できますので。



毎日手書きで記入する桐谷さんの売買ノート

素敵な配当ライフをみなさんもぜひ!!



株式投資で得られる利益 2つの“gain”



“gain(ゲイン)”とは、『得る』『手に入れる』『利得』などの意味があります。
株式投資における利益の源泉は主に2つ。

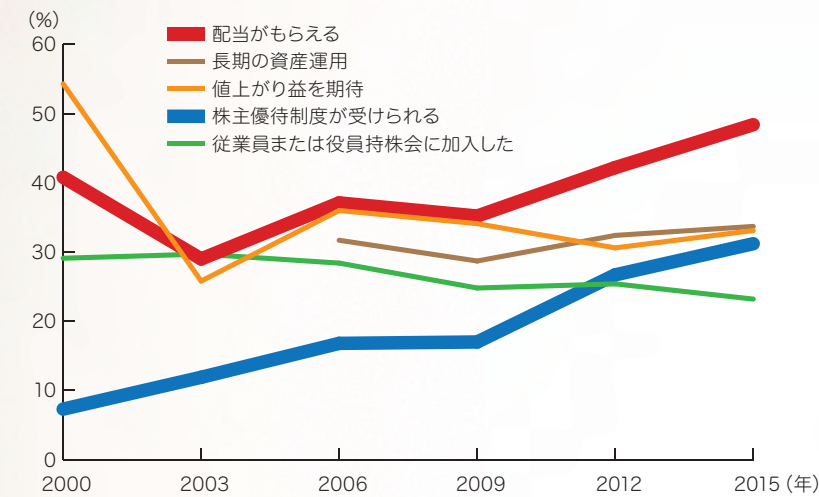
1つは、キャピタルゲイン(capital gain)。
資産の『値上り益』で、保有している資産を売却することによって得られる売買差益のことです。
しかし、キャピタルゲインは一般的に
売買のタイミングが重要とされ、
場合によってはキャピタルロス(損失)が発生します。

もう1つは、インカムゲイン(income gain)。
株式投資では配当から得られる収益のことをいいます。

株式を保有していることで獲得できるインカムゲインは、
比較的安定した収益の源泉といわれます。

株式投資に何を期待する？ —高まる配当や株主優待への期待

個人投資家の株式購入理由(複数回答)



出所: 日本証券業協会「証券投資に関する全国調査」より三菱UFJ国際投信作成
期間: 2000年～2015年(3年ごと)
※上位の選択肢のみ表示しています。

『株式投資をしている人は、
誰もがキャピタルゲインを狙っている』と
いうわけではないことをご存知でしたか？

日本証券業協会の調査によれば、ここ数年、
配当や株主優待を期待する投資家が増えているそうです。
株式での資産運用において投資成果を実感したいという
投資家のニーズを反映している結果と言えそうです。

長年、株式投資において、キャピタルゲインの陰に
隠れた存在であったインカムゲインでしたが、
ここに至り、その存在感と注目度はグッと高まっています。



高配当起点の 投資メソッドを**活用**する

誰でも知っている『日経平均』 & 関心が高い『高配当』

株式投資の方法はさまざまなスタイルがありますが、実は、“配当”なかでも“高配当”に着目したスタイルは、長く用いられている投資メソッド(投資のやりかた)のひとつです。

日本の代表的な株式指数である日経平均採用銘柄から、高配当銘柄を抜き出したものをまとめてみると(次ページ表)、配当利回りの高い有名企業が数多く存在していることがわかります。

実際の株式投資に際して、高配当メソッドを参考にしてみたり、あるいは、同じようなコンセプトで運用をする投資信託(ファンド)を活用してみてはいかがでしょうか？

日経平均の予想配当利回り
上位30銘柄(2018年11月30日時点)

銘柄名	業種(東証33業種)	配当 利回り
松井証券	証券、商品先物取引業	6.53%
日産自動車	輸送用機器	5.73%
SUBARU	輸送用機器	5.71%
日本たばこ産業	食料品	5.31%
キヤノン	電気機器	4.97%
あおぞら銀行	銀行業	4.93%
昭和シェル石油	石油・石炭製品	4.82%
ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	4.75%
積水ハウス	建設業	4.62%
東京エレクトロン	電気機器	4.56%
三井物産	卸売業	4.51%
東京海上ホールディングス	保険業	4.46%
三菱ケミカルホールディングス	化学	4.31%
住友商事	卸売業	4.30%
武田薬品工業	医薬品	4.23%
NTTドコモ	情報・通信業	4.18%
伊藤忠商事	卸売業	4.12%
三菱商事	卸売業	4.08%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.06%
MS&ADインシュランスグループホールディングス	保険業	4.06%
ファナック	電気機器	4.05%
丸紅	卸売業	4.01%
みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.98%
NTN	機械	3.94%
日清紡ホールディングス	電気機器	3.87%
ヤマハ発動機	輸送用機器	3.85%
大和証券グループ本社	証券、商品先物取引業	3.83%
KDDI	情報・通信業	3.75%
日本精工	機械	3.75%
双日	卸売業	3.73%

出所:QUICKデータを基に三菱UFJ国際投信作成
※上記は、作成時点での数値であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
※上記は、個別銘柄を推奨するものではありません。